

WASEDA-EDGE人材育成プログラム後援会 会員のみなさま

WASEDA-EDGE人材育成プログラム 2018年度報告

平素より、本学のアントレプレナー育成事業に対し、多大なるご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

2018年度は、文部科学省からのEDGE-NEXT補助金事業年度2年目として、2017年度に行なったプログラム・試みを更に発展させ、様々な取り組みを行ないました。これまでの成果を基盤に、参加機関の強みや国内外の産学官の英知を結集して、専門的基礎能力を有し、鋭利な発想、体系的な方法論により新たな市場を開拓し、「グローバルリーダー」「地域貢献」を体現するアントレプレナー人材のすそ野拡大に向けた「Future-EDGE人材」と、実際の起業・新規事業創出に向けた「EDGE-NEXT人材」を文理融合で養成すべく、日々プログラム運営を行なっております。

本報告書では、2018年度にWASEDA-EDGE人材育成プログラムで行なった取り組みの一部を紹介させていただいております。取り組みを広く公開させていただき、後援会の皆様方からのご意見を賜る機会ともさせていただきたく、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

2019年度も、新たなプログラムに取り組みより一層プログラムの充実に諮っていく予定でおります。引き続き、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

WASEDA-EDGE 人材育成プログラム 実行委員長 高田祥三

2018年度に実施したEDGE-NEXTにおける試み

1) 特徴あるプログラム

- ・実践・起業インターン（REAL）

会社設立から解散までの一連の起業ライフサイクルを、インターンとして体験することを目的とした実践型のプログラムです。ビジネス・クリエーションコースにて、アイデア発想や起業の技術を学んだあと、選考に合格した学生のみが参加可能となっています。

履修者は3チームに分かれて、1年をかけて一連の起業のサイクルを体験していきます。各チームには「資本金」としておよそ30万円ずつが振り分けられ、商品開発から取引先との交渉、ERP講習、契約書作成、チームマネジメント、営業活動&ピボット、経理と財務の管理、出口（EXIT）戦略等を実践の中で学んでいます。

（↓東洋経済ONLINE 2018/12/02で紹介されました。）



- ・医療特化型ビジネスモデル仮説検証プログラム

協働機関である滋賀医科大学との連携プログラムで、新規事業創出プロセスのうち、医療機器のアイデア発想からビジネスモデルの仮説検証までを対象としています。

製品のアイデア発想では、医療従事者のニーズを題材とし、デザイン思考等の発想法を活用していることから、医療従事者へのヒアリングや、医療機器の専門家による医療機器に関する基礎知識の講義も含まれています。

製品を中心としたビジネスモデルの設計と検証時には、ビジネスモデル仮説検証講座を基礎としながら、医療機器特有のリスクを低減させるための実践教育コンテンツも追加しています。

(↓医療特化型ビジネスモデル仮説検証プログラムの様子)



・多摩美術大学×WASEDA-EDGEプログラム連携講座

多摩美術大学生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻との協働による講座です。仮説検証プログラムを基礎に、多摩美術大学のデザイン面のノウハウ・カリキュラムを適用して、より効果的な事業創出技法の習得を目指しました。2018年度はリーダーシップ行動を促すチームビルディングによる学びの深化も取り入れバージョンアップしました。

(↓多摩美術大学×WASEDA-EDGEプログラム連携講座の様子)



2) 国内・海外連携プログラム

・富山県新規事業創造インターンシッププログラム

2018年1月15日に本学と富山県との間で締結した「就職支援・人材還流に関する協定」に基づき実施されたプログラムです。本学の学生と富山県内の企業がチームを組み、「未来社会を創る」「Uターン/Jターン/Iターンが起こす地域イノベーション」をテーマに、富山県における地域イノベーション、企業内新規事業創造に貢献できるアイデア創出を目指しました。

学生と企業人が共に課題に取り組む新たなインターンシップのスタイルを取っており、アイデア創出からビジネスモデルの検証までを、理論に基づいた緻密な手法により、実践的に学ぶ貴重な機会を提供しました。

本プログラムは多数のメディア（新聞・テレビなど）にも取り上げられ、社会的にも関心の高いプログラムとなりました。

(↓富山県新規事業創造インターンシッププログラムの様子)



・中国サマープログラム、ウィンタープログラム

中国国家重点大学群の学生を対象としたプログラムの中の5日間を使い、夏・冬ともに本学にて起業家教育に関するプログラムを提供しました。

コーチングの手法やビジネスプランの練り方などを勉強しながら、最終日に向けたビジネスアイデアの発表会に向けて、グループプロジェクトに取り組むプログラムを実施しました。上海の復旦大学等、中国トップ校からの学部生、院生が参加し、受講生からの評価も非常に高いものとなりました。

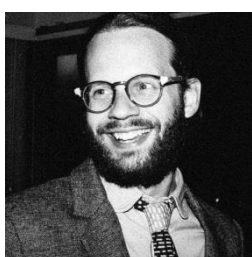
(↓中国サマー・ウィンタープログラムの様子)



・デザイン思考ワークショップ

アメリカスタンフォード大学d. schoolより講師2名を迎え、2日間にわたるデザイン思考を活用したアイデア創出ワークショップを開催しました。全編英語で実施しましたが、定員32名のところ80名超の学生より応募があり、盛会のうちに終了いたしました。

講師：



David Janka
Design consultant and creative strategist; former Fellow and current lecturer at the Stanford University d. school.



Scott Witthoft
Professional space and product designer; former Fellow and current lecturer at the Stanford University d. school.

・バブソン大学との共同ワークショップ

バブソン大学と本学学生で合同混成チームを作り、共通のテーマを設定。フィールドワークに出向き、アイデアの「種」を探しました。様々なスポットに彼らを案内して日本を感じてもらい、その後、ワークスペースで課題抽出とアイデア創出を行いました。

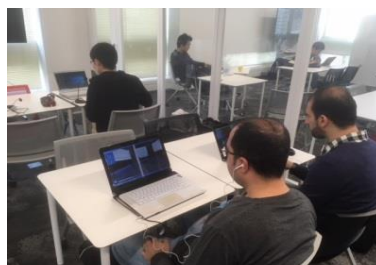
(↓バブソン大学との共同ワークショップの様子)



・Micro MBA Online

主に理系バックグラウンドの大学院生、学部生、ポスドク、若手サイエンティスト・エンジニア等を対象に、MBAレベルのビジネス知識を英語で講義するミニ・プログラム。アメリカのUniversity of California San Diegoとは各自のPCをつないで遠隔授業を行っており、2017年度に引き続き実施しています。

(↓参考：昨年度の様子)



・海外武者修行プログラム

起業に取り組む本学の現役学生・若手OBを世界的レベルのスタートアップ企業が群拠するイスラエルへ研修派遣しました。プログラム参加者は事前研修として、英語力を向上させるプログラムに参加、またTV電話を用いてイスラエルのVCにピッチを実施するなど、より実践的な事前研修を行ないました。現地では、自然言語処理や暗号化技術など、イスラエルの先進技術動向のレクチャーを受講、また、現地のベンチャーキャピタルに対して自らのビジネスモデルのピッチを行い、フィードバックを受け、国際水準の起業スキルを体得しました。

(↓事前研修および現地研修の様子)



3) 実践への橋渡しプログラム

・WASEDA Demo Day

法人設立および事業立ち上げを検討している学生向けに、それらのプロジェクト・アイデアを発表できる場（Waseda Demo Day）を学内で初めて開催しました。

優勝者には、法人設立および事業立ち上げ資金として賞金50万円がスポンサー（投資家）から贈呈され、その他特典として投資家の方々よりアドバイスをもらえるメンター権も贈呈されました。

(↓WASEDA Demo Dayの様子)



・ギャップファンドプロジェクト

自らの研究シーズの事業化を目指す修士以上の学生、研究者を「研究者枠」、研究者とともに、事業化に向けてビジネスプランの構築等を担う学生を「事業育成者枠」として募集し、自らの研究シーズを元にした事業化案を練り上げ研修最終日の事業化案発表会にて、高評価を得た数チームがギャップファンドを獲得できるというプログラムです。

事業化案発表会での発表に基づき、支援チーム・支援額が決定され、全6チームにプロトタイプ製作費として支援金が交付されました。

このプログラムにより、EDGEプログラムで課題となっていた「出口側」の充実化に対応することができました。

4) その他のプログラム、イベント等

2018/5/25	中国アリババグループの創業者 ジャック・マー会長による特別対談	マー氏による未来のグローバルリーダーを目指す本学学生および、理工学術院の玉城絵美准教授とアントレプレヌールシップ（起業家精神）や持続可能な食糧システム、そして技術開発等さまざまな分野についての講演。 Waseda-EDGEプログラム受講生2名を含む3名の学生・教員との対談を行った。
2018/5/17	Beyond 2020 Night	協働機関である、東京理科大学、山形大学からも参加者をつのり、協力機関である東京都産業労働局、大川ドリーム基金と連携して実施した。2020年以降の社会を見据えて、イノベーションを引き起こしたい人は何をすべきか、2020年以降の日本を担う若者はどこを目指すべきなのかをテーマにディスカッションした。
2018/6/6	アダム・ディアンジェロ氏 (Facebook 初代CTO、“Quora”CEO) が 早稲田に来校！：エンジニアが語る、 起業家精神とは？	アダム・ディアンジェロ氏の学生時代の話からFacebook CT0を経て時価総額10億ドルを超えるユニコーン企業になった「Quora」を設立・成長させた過程や、AIが社会や新ビジネス創出にどのようなインパクトや恩恵をもたらすのかご講演いただいた。本講演会は先方からの開催打診により実現した。
2018/10/4	Beyond 2020 Night Supervised Vol. 2 by SKYWARD EDGE CONSORTIUM - ”新しい未来 をデザインする”	2020年を目前に、2020年以降の社会を見据えて、イノベーションを引き起こしたい人は何をすべきか、2020年以降の日本を担う若者はどこを目指すべきなのかについて語り合う。今回は、学生起業家によるピッチや座談会、未来を形作るためのヒントとなるInclusive Innovationに関わるレクチャーなど共に、「新しい未来をデザインする」ためのヒントをネットワーキングも交えながら議論を行なった。
2018/11/15	早稲田大学 × ASHOKA × みずほ銀行 による ソーシャルイノベーションへの取り組み リカルダ・ゼッツァ来日講演	女性の社会的活躍のためのイノベーションを起こした、リカルダ氏の講演とディスカッションを、早稲田大学とみずほ銀行、世界的なソーシャル・アントレプレナーのグローバルネットワークであるアショカ財団との協働により開催。
2018/12/9	ハルトプライズ早稲田大学大会 「ほんとうに世界を変えられるビジネス コンテスト」	HULT PRIZE 学内選考の開催
2019/1/16	ミュージックアイデアコンテスト最終選	(株)レコチョクからの協賛を受けて、音楽に関するアイデア

	考会	コンテストを実施する。書類選考（1次選考）を通過した参加者が本最終選考会に参加し、審査員および一般観覧者を前にアイデアを発表しました。
2019/1/24	SHIBUYA SCRAMBLE SERIES Vol. 1 WASEDA-EDGE × SHIBUYA QWS Presents 「次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ」	渋谷スクランブルスクエア株式会社と共同で実施し、Yahoo JAPANの川邊CEOを迎え、公開授業形式で実施しました。
2019/2/7, 3/1	イノベーション創出セミナー	「人を幸せにする評価・教育で、人を幸せにする人をつくる」をビジョンに、AIとビッグデータを利用し、人間のバイアスを排除した評価と、教育事業を担うIGS株式会社の創業者・福原正大氏による特別講演会、およびIGSエンジニアによるデータサイエンティスト育成を目的とした実践セミナー（初級及び上級）を実施しました。

ご参考：EDGE-NEXTとは（2017年度の報告書からの抜粋）

イノベーション人材育成拠点として最高評価「S」を獲得

「グローバルアントレプレナー育成促進事業」は文部科学省が推進し、我が国におけるイノベーション創出の活性化のため、大学等の研究開発成果を基にしたベンチャーの創業や、既存企業による新事業の創出を促進する人材の育成と関係者・関係機関によるイノベーション・エコシステムの形成を目的とした事業です。本事業には、2014年から2016年まで早稲田大学を含む13機関が選定されました。

本事業の構想において、本学は、日本の成長戦略の実現に寄与するため、「WASEDA-EDGE人材育成プログラム」の名のもと、全学を挙げて文理融合により社会デザイン工房「共創館」を設置し、事業化マインドを持つ人材の育成、持続的イノベーション・エコシステムハブ形成に貢献することを掲げました。

プログラムでは、起業やビジネスの基礎知識や手法等の実践的講義、インターンシップを提供するアントレプレールシップ教育プログラム、デザイン思考やワークデザインなどのアイデア発想法を学ぶ価値共創デザイン教育プログラム、NSF I-Corpsの事業化促進プログラムを原型とするビジネスモデル仮説検証プログラム等を通じて、鋭利な発想、体系的な方法論により、グローバル展開可能な新規事業を創出するEDGE人材を養成してきました。2014年からの3年間で受講者数は累計2222人（2018年4月現在、EDGE-NEXTにおける受講者数を含めると 3500名超）、起業数は累計8件にのぼります。

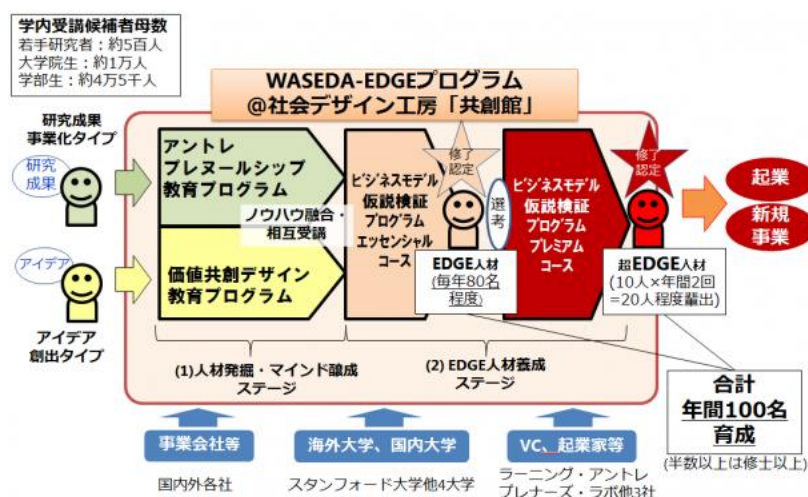
その結果、早稲田大学は、2018年春に実施されたEDGEプログラムの事後評価において、最高のS評価を受けました。13機関中、S評価は本学を含む3機関でした。本事業の事後評価は、「目標達成度」、「成果、計画・手法の妥当性」、「補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性」の観点から、総合的に評価されました。評価結果は、4つの指標のうち3つがS評価であり、「所期の計画を超えた取り組みが行われている」という最高の総合評価点Sを受けました。

評価コメントでは、「大学主導のよく設計された計画に則って、学生・若手研究者のモチベーション喚起、基本知識の学習、価値創出のためのアイデア発想法、課題発見段階におけるフィールドワーク、ビジネス設計のフレームワークや制約の学習、ビジネスモデルの仮説検証といった学習プロセスが実施され、かつ、「早大起業支援パッケージ」と相まって大きな成果を上げている」点が大きく評価されています。また、「学内に閉じることなく他大学への普及までも見込んだ、大規模大学として相応しい行動であり、多数の受講

者や起業、新規事業及びビジネス・クリエーションコースの全学展開など、目覚ましい成果をあげており高く評価できる」とあります。本学はさまざまな教育機関の中から、イノベーション人材育成拠点としてふさわしい大学として認定されたといえます。



早稲田キャンパスのWASEDA共創館



WASEDA-EDGE人材育成プログラムの全体像

EDGE-NEXT 国内外へさらにすそ野を広げたアントレプレナー人材の育成へ

2017年7月10日、文部科学省平成29年度次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）に、早稲田大学を主幹校とし、滋賀医科大学、東京理科大学、山形大学を協働機関、多摩美術大学、富山県、株式会社本田技術研究所、一般財団法人大川ドリーム基金ら31機関を協力機関とするコンソーシアム「EDGE-NEXT人材育成のための共創エコシステムの形成」が採択されました。

EDGE-NEXTは、EDGE プログラムに採択された大学をはじめ、これまで各地の大学で取り組まれてきたアントレプレナー教育で得られた成果や課題を踏まえて、大学等の研究開発成

果を基にした起業や新事業創出に挑戦する人材の育成、関係者・関係機関によるベンチャー・エコシステムの構築を目的としています。今回の公募には、12件が応募し、うち5コンソーシアムが採択されました。

本コンソーシアムは、「Skyward EDGE」の名のもと、EDGEプログラムでの成果を基盤に、参加機関の強みや国内外の産学官の英知を結集して、専門的基礎能力を有し、鋭利な発想、体系的な方法論により新たな市場を開拓します。「グローバルリーダー」、「地域貢献」を体現するアントレプレナー人材のすそ野拡大に向けた「Future-EDGE人材」と、実際の起業・新規事業創出に向けた「EDGE-NEXT人材」を文理融合で養成します。

Skyward EDGE コンソーシアムの特徴

- 協働4大学+31協力機関の新結合による先鋭的プログラム
- 理工系・文系・医療系・芸術系など多様な専門分野を持つ大学の連携
- 5年間で合計5,200人の多数の受講目標
- 地域連携：山形、富山、滋賀、北九州など 全国にハブ形成
- 海外連携：欧・米・アジアでのネットワーク構築

特長は、①欧米アジア及び国内へのダイナミックなプログラム展開、②医工などの分野特化型および美大との連携によるラピッドプロトタイプング手法を導入したリーンスタートアップ開発、コーチング導入などによる教育プログラム高度化、③本格起業前に腕試し的な経験を積むことができるインターンシッププログラムによる入口強化、ベンチャーキャピタル等から大型資金調達を実現するまでの創業支援による出口強化などです。これらの取り組みを通じて、各機関が世界を惹きつけるアントレプレナー育成拠点（エコシステムハブ）となり、日本のベンチャー・エコシステム構築に寄与し、「失敗を恐れず、前進する起業文化」の醸成に貢献することを目的としています。

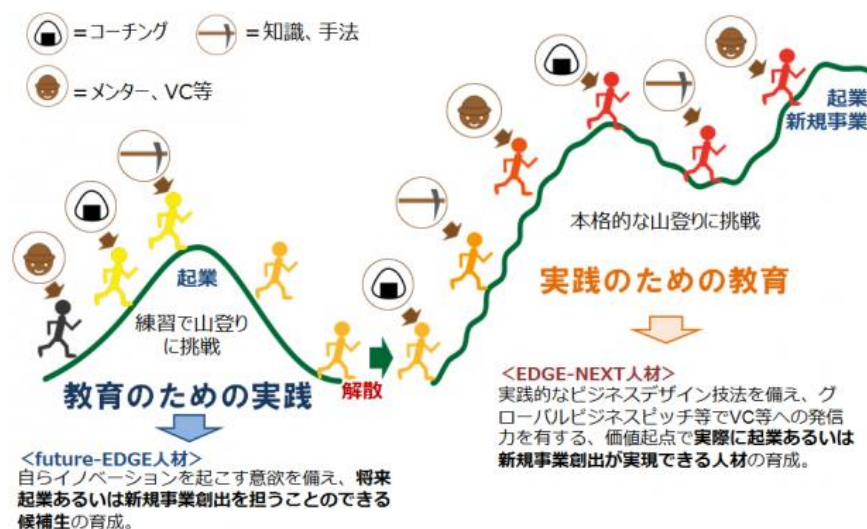


国内外との連携によるダイナミックなプログラムを展開

正規科目群「ビジネス・クリエーションコース」を核とした教育プログラム

グローバルエデュケーションセンターでは、「WASEDA-EDGE人材育成プログラム」の成果を活用し、2017年度より新たに正規科目群である「ビジネス・クリエーションコース」を設置して、文系・理系を問わず、全学部生・大学院生向けに起業や企業における新規事業化の知識を学ぶことができる実践型教育プログラムを提供しています。「ビジネス・クリエーションコース」では、意識醸成・アイデア創造・ビジネスモデル仮説検証の3つのステージを通じて、新規事業化の知識を実践的に学ぶことができ、初年度の2017年度には、1,111名の学生が参加しました。

Skyward EDGEでは、ビジネス・クリエーションコースを核に、「教育のための実践」と「実践のための教育」の二つのトラックを走らせています。「教育のための実践」では、自らイノベーションを起こす意欲を備え、将来起業あるいは新規事業創出を担うことのできる候補生を育成します。「実践のための教育」では、実践的なビジネスデザイン技法を備え、グローバルビジネスピッチ等でVC等への発信力を有する、価値起点で実際に起業あるいは新規事業創出が実現できる人材を育成します。



実施する教育プログラムのイメージ、育成するアントレプレナー像